

「リニューアル予告展示会～北海道開拓記念館から北海道博物館へ」お知らせ！

2015年に、北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターが統合して「北海道博物館」が誕生します。この度当館において、リニューアル予告展示会を開催する運びとなりました。新しい展示の見どころや同館が目指す姿やこれからの活動を豊富な資料とともにご紹介します。

1. リニューアル予告展示会

■日 時 平成26年10月7日（火）～20日（月）

■場 所 別海町郷土資料館第2展示室

観覧無料（当館常設展示の見学は入館料が必要です。）

2. 関連講座

■日 時 平成26年10月12日（日）

■場 所 別海町郷土資料館

①「よく見てみよう！ アイヌ文様」10：30～12：00

講師 北海道開拓記念館 出利葉浩司氏

②「アイヌ語と口承文芸の世界」13：30～15：00

講師 北海道立アイヌ民族文化研究センター 田村雅史氏

※関連講座の申込は、電話・FAX・メールのいずれかにて事業名・お名前・電話番号をお知らせください。



【国宝】中空土偶（複製）

縄文文化後期

函館市著保内野遺跡

ふるさと講座・歴史系第3回目のお知らせ！

「擦文・アイヌ時代～オンネニクルの森を歩こう・野付 1.2 遺跡」

野付半島にあるオンネニクルの森へ足を運び、野付半島の自然、森に残された古代竪穴住居跡・チャシ跡を探索しようと思います。

●日 時 平成26年10月19日（日）午前10時～午後2時

●場 所 野付半島（集合：野付半島ネイチャーセンター2階）

●ガイド 野付半島ネイチャーセンター・郷土資料館職員

●定 員 20名

●申込方法 電話にて氏名・電話番号を10月17日（金）までにご連絡ください。

●その他 気候が変化しやすい時期なので、防寒着、長靴を着用ください。

昼食は現地で取りますので、お弁当、飲物を持参ください。



シリーズ「近世の別海を探る 野付～その7～」

文献史料での標記は、「チフル」「チフル川」「チフルベツ」「チブウル」「チプルー」「コイトイベツ」などがあります。現在の茶志骨川を言います。前期松前藩時代18世紀後半の文献史料からこの地名が登場します。



○地名の由来

☆〔コイトイベツ（チプルー）〕

「浪入り川 一名チプルー」

「舟路「コイトイエベツ」ノ一名」

『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)

○地勢・建物など

幕府直轄時代 寛政11年(1799)～文政3年(1820)

「チウル 川」『東蝦夷地各場所様子大概書』松前藩 文化5年(1808)



●松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)

・「川有。巾十二間位。鮭上る也。是より砂道。舟は此処に而乗捨て夷人兩人召連陸道ニなる也。此間六丁ニし而コイトイ番屋ニ致(到)る」

・「…又此番屋のうらに川有。チフルベツと云。…」

『初航蝦夷日誌』松浦武四郎 弘化2年(1845)

・「…此所(コイトエ)の海岸より纔二丁程奥チフル川有之。川幅十間程、此川よりノツケトウ入江口ノ内え出、ノツケ、ニシベツへ通路仕候。

『古人の邑噺 嘉永七甲寅年間七月 [子モロ場所]』加賀伝蔵 嘉永7年(1854)

●幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

・「…同じき處(二十五丁)チフルウ(コイトイベツ)入口 川深くして遅流、水悪し、桃花魚多し。他の魚はなし。」『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』松浦武四郎 安政3年(1856)

・「此辺川巾十二三間に成、広くなりて遣り宜敷と思ひしに、水浅くして所々て当り、甚難洪を致しける。此川遅流にして魚類は桃花魚・鮭のみなりしと聞。是よりして…」

『竹四郎廻浦日記』松浦武四郎 安政3年(1856)

・「…此所之海岸より纔式丁程奥にチフル川有之。此川よりノツケトウ入江内へ出、ノツケ、ニシベツ両所へ往廻之通路仕候。」『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政5年(1858)

別海町郷土資料館だより No.182

発行日 平成26年9月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

好天が続きますが、すっかり秋模様です。只今発掘調査の報告書作成のための整理作業に入っております。

さて、来月からは、北海道博物館のリニューアル予告展示会が開催されますが、国宝の中空土偶(複製)も目玉の一つです。ぜひ、ご来館下さい。(K.I)